

## 第2回仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会 主なご意見

### 計画の方向性(全体)

- ① 条例にしても、基本計画にしても行政のツールであり、条例がいいのか、あるいはより柔軟性が高く、機動力をもった基本計画がいいのか、ということはそれぞれの自治体が判断されることかと思う。条例をつくることにももちろん大きなメリットがあるが、条例を作れば全てが上手くいくわけではないということもある。いかに実効性を高めて上手くいく仕組みを作っていくかというところが問われていると思う。
- ② ヒアリングやアンケート調査、そういったものを上手く、エッセンスを抽出しながら方向性を固めてお示しするというところに非常に大きな意味があるのではないか。
- ③ 現在、様々なところで文化戦略が推進されているが、文化芸術の分野で考えた場合、行動計画であるとしても5年というのは少し短いかもしれない。一般的にはだいたい10年計画で策定されている場合が多いかと思う。また、行動計画となると、5年で目標を持ってどれだけの結果が出せるかという要素が入ってくる。
- ④ 計画の5年という時間の中でどの辺りをどこまで達成することを目指していくのかということと、この計画が今ある事業の全体の理念になるものなのか、それとも改めて、足りない活動等を施策として打っていくのか、という方向性によっても軸の立て方は変わってくる。この計画自体が新たな方向性を実現していくための目標になるのであれば、5年という時間は基盤づくり、準備や種まきのような活動になるため、基盤づくりや体制をつくるということについて想定していく必要がある。
- ⑤ 5年という期間を区切ってはいるが、5年後に全く白紙になって次にいくというわけではなく、今回の計画を引き継いでいくことが想定される。今まで色々な施策として行ってきたものを言語化してここで基本計画をつくり、5年後は、それをまた軌道修正しながら使っていくという形に実際はなっていくのではないかと思う。
- ⑥ 仙台市の文化芸術の特徴として、文化財の面ではその数が多いことに加えて、質も非常に高いということがある。つまり、仙台市の文化芸術は個人の技術が高い状態にあるというのが特徴。より広い舞台に出ていくためには、個人の高い技術を活かすチーム戦術がどうしても必要になってくる。基本計画の中では、そのチーム戦術を何にするのか、そこが具体的なキーワードに結びついてくることになるのかと思う。
- ⑦ 基本理念もとても大事だが、本質的な価値をしっかりと見極めながら、より実効性のあるものにしていく方のプランが大事だと思う。

## 重視する視点・軸

---

### (1)連携

- ①「市民協働」や「連携」というキーワードが示されているが、市内にある様々な活動を繋ぎ、様々な領域と関係を作っていくような連携の機能が非常に重要。
- ②活動の場の不足という課題も、新しい場を作るということだけではなく、市内にある様々な場所を繋げば解決することもあるのではないかと。コーディネートする対象が人や活動だけではなく、場所も想定として入ってくるとよいのではないかと。
- ③障害のある人たちを含み、社会的に生きにくさを抱える人たちと文化芸術を通じてよりよく生きる、元気に生きる、生活を充実させていくという、文化の力を通じた支援をしている小さなNPO 団体等が行っている活動を、文化政策に反映していくことが大切。一見こうした活動は、単に福祉の分野の活動であるというように見られがちだが、ここを超えてきたのが仙台市の行政の皆さんとの連携の力だと思っている。それは「市民協働」という視点かもしれない。

### (2)市民・担い手

- ①計画の推進にあたって、その進捗をどのように確認していくのかも軸になるのではないかと。実際に誰が推進していくのかを想定し、コーディネートや連携を行う主体の必要性についての課題を踏まえた、その実現に向けた活動や体制が軸として非常に重要。
- ②「活動」は1つの軸になってくると思う。調査において全体の活動率は20%という数字が出ていたが、一緒に活動していく人や場と結びつきかけがあれば、より活動が増えていく可能性も調査結果では示唆されていて、そうした環境を整備することは、広い意味で連携の話につながるのかもしれない。
- ③アンケート調査の中で、文化芸術を鑑賞することや文化芸術活動を行うことが非常に大切であるというたくさんの回答があった。ここに1つの糸口がありそうだと感じた。この基本計画は市民のための基本計画であるべきで、軸はあくまでも市民においた方がよいと思う。
- ④アンケート調査の中で、鑑賞や活動について、「機会と時間があればやりますよ」という結果が出ている。では、その機会とは何なんだろうということ进行分析していくことが新しい展開を目指す計画の策定の一つのきっかけになるのではないかとと思う。
- ⑤文化芸術が持つ多様な力をまちづくりに活かすことが目的ではなくて、まちづくりということが手段だということをもって、計画を今後構成していけると良い。
- ⑥この基本計画の策定の軸を考えると、「まちづくりに活かす」ことは重要なポイントだと思う。ただしそれは手段で、基本的には仙台に住んでいる人（市民）が元気になるように、あるいは文化観光の側面から、仙台に来た人が元気になって帰ってもらうというような、そういったキーワードを作りながらのまちづくりというところを入れ込んでいくと良い。
- ⑦この10数年の間にひとつ、大きな過渡期を迎えるのかなと感じている。仙台フィルは今年50周年という時を迎えて、これまでに取り組んできたその歴史を振り返りつつ、新たにメンバーを迎えている状況。3年ごとに開催される仙台国際音楽コンクールではその都度、世界に羽ばたく演奏家を輩出しているというような状況で、仙台をアーティストのキャリ

アの発信地としてスタートさせ、そのことによって仙台に繋がりを持つアーティストが増えている。仙台市に住んでいる人がアートに触れる、見る、演じるなど、様々な活動を行うことはもちろん前提だが、アートをやる担い手がここで何かをしようと思い、仙台を選んで、このまちに戻ってくるためには、戻ってくる場所、帰ってくる場所をつくる必要があると思う。「次代の担い手の育成」「興味関心を得られる機会の充実を図る」ことからもう一歩踏み込んで、アートに取り組む人たちが活力を持って活動できるという点も計画の中に組み込むと、今後もアートの担い手たちはこのまちに集まってくると思う。

- ⑧ アートの担い手たちがまちに集まることによってさらに若い子どもたちがアートに触れる機会が充実し、あるいは将来的に生涯を通じて芸術に触れるという方に対して、アクセスがしやすくなる、情報発信をする人が増えるということになってくるのではないかと。
- ⑨ 課題があり、こういうことやらないといけないという方向性が見えたとしても、それをすべて行政が、直接やる必要は全くないというところを強調したい。行政もコーディネーターやプレーヤーの1人であって、大事なプレーヤーだが、特に文化芸術分野は色々な方々が色々な能力、キャパシティーで活動することによって、相乗効果が生まれて、それこそがいいという考え方がある。一方、行政がしなければならないことは、例えば規制緩和、行政的なルールを作るといこと、社会的に顕彰する、認知するというようなところ。直接しっかり関わらないといけない部分は、マーケットでできないことだと思う。

### (3)文化芸術の拡がり

- ① (文化の力を通じた支援をしている NPO 団体等の) 活動の基盤、環境を支えてきた施設には、生涯学習課が管轄しているせんだいメディアテークをはじめとする生涯学習施設、社会教育施設の存在がある。文化芸術は、単に何か物を作るということだけではなく、人々が自らやりたいと願うこと、それを続けるということに対して環境を作っていくことが大切。一見、表現として表出されていないけれども、「てつがくカフェ」や「ドートクのじかん」等に代表されるように、人々がよりよく生きることを支えてきた文化があり、ここに障害のある人たちも、大勢参画している。現在の計画の議論では、ここが少し言葉や事業のキーワードとして、全体を見た時に不足しているのではないかという実感を持っている。

### (4)付加価値

- ① 仙台市の魅力を再発見して、我々がそれを認識し、どのように活用していくかということが連携というのはとても大事で、何かと何かを繋げて足すのではなく掛け算をして、二次効果、三次効果といったものを、しっかり生み出す力が必要。それぞれ単体で行うのではなくて、連携をしていく、繋げていくことで、まちづくりに繋がるのではないかと。また、何かを繋げていく仕掛けづくりには、想像力やデザイン力といったものが試され、そこから情報発信に繋がるのではないかと。
- ② ここ数年で仙台市役所、音楽ホールを含め、建築物が相当リニューアルされ、まちの顔が変わる。ソフト面も大事だが、ハード面もしっかりとらえながら、そことうまく協働してどのように仙台の魅力を発信していけるかということが非常に大事。付加価値をどう生み出すかという仕組みづくりを今後の計画の中に入れていけるとよい。

## 計画への具体的な記載について

- ①この基本計画の目指す姿について、やや並列的に扱われているという印象を受けた。この内容に決して軽重はないと思うが、少々順序性というのを考えてもいいのかと思う。(1)から(5)の中で、やはり基軸は(3)だと思う。あらゆる人に参加機会が開かれ、文化芸術に親しめるまちというものがメインになっていて、それを構成するものとして、(2)や(4)や(5)があつて、そして結果的に(1)が出てくるというような構造化を少し意識すると、今後の骨子を作るときに、ある程度見通せるのではないかと思う。
- ②5つの目指す姿はすべて重なる部分が一定程度ある。このように書いていくと、そこを重点的に行うという視点がより明確化されると思う。人に関する部分だけでも相当あるが、そこに若者、あるいはチャレンジというフォーカスが入っている。そういう目指す姿を1つクリアにして出すという、そうした趣旨があると思う。
- ③行政の関わり方や立ち位置について、どのように書き込むかは別として、しっかり記載する必要がありますと思う。行政がコーディネーターとして、色々な機能で関わっていくところ、全てを行政がやるわけでもないし、全てを民間に任せるわけでもないというところを書いていただくと良い。もちろん連携は必要な視点。
- ④資料4の「(2) 課題」は、仙台市の文化や芸術活動にまつわる政策課題を明示するところなのだと思う。そうすると、実施に移ってからの話になるが、それを誰が改善するのかという課題が出てくる。誰もやっていないから市がまず率先してやるべきことなのか、すでに活動に携わっている人たちの環境を改善した方がいいのかというところの優先順位など、何から取り組むべきかというところがもう少し必要なのではないか。
- ⑤「まち」をひらがなで書くと、漢字の「街」とは随分違うイメージがあるというのが一般的な考え方かと思う。また、「市民」とは何かというと基本的にはかなり幅のある概念で、そこに住んでいる方々、あるいは地域の方々が中心なんだけれども、その周辺の方々、関係する方々、交流する方々も場合によっては広く含められるイメージと理解した。このように「まち」と書くとよりイメージがはっきりしやすい、仙台市のイメージがはっきりしやすいということで書かれたのだと思う。都市計画の分野では文化は人をつくる、人はまちをつくると言って、最終的には人が寄って集まっているコミュニティみたいなものをまちと呼んでいることもある。こうした打ち出しも、市民の方にはっきりとしたイメージを伝えやすいのではないかと思う。
- ⑥これまでの議論で重要だと思ったのはこのアクセス改善というところ。アクセス改善と言った時、今までどういう人たちを活動の対象として想定していたのかをきちんと問い直すという、そのくらいの幅のある書きぶり、そこに隠されている本当の課題が何なのかというところをしっかりと見えるような形で書いていく必要があると思う。
- ⑦仙台で働く人、学ぶ人としての外国人の方たちがたくさんおられ、果たしている役割が大きいわりに、国籍がちがい、また日本語を母語としない人たちに向けたメッセージや視点というのが言葉として脱落しているように見受けられたので、そうした要素も資料の中に盛り込んでいけるようになると良いのではないか。
- ⑧文化財は不変のものではなく、時代に応じて、あるいは担っている人に応じて、変えて、そして継承していくべきものだと思う。適切に保存し、その価値への理解を深め、新たな文化活動へと昇華し、未来に継承し発展させるという、少し新しい意味を加えても良いですよと

いうところを付け加えると、より良い表現になると思う。

- ⑨仙台市で行っている芸能については、伝統芸能という言葉を使うのであれば、地域伝統芸能という「地域」を入れると、よりふさわしい。文化財の言葉では民俗芸能、あるいは郷土芸能という言葉になる。伝統芸能というのは別の意味があるので、言葉の使い方についてご検討いただきたい。
- ⑩地域伝統芸能については、もともと必要とされていた素地があり、適切に保存するためにはその素地が大切な要素になる。その素地とは、全ての芸能にはいつの季節に行くかという季節があったということ。このように季節があったというところを踏まえて、この基本計画の中にうまく盛り込んでいくと良いと思う。

### **新たな文化施設((仮称)国際センター駅北地区複合施設)**

---

- ①今月オープンした茨城の水戸市民会館について、専門的なホールや練習室以外の、余白のような空間が豊かでとても現代的なあり方だと思った。現状では想定されていないものに関しても広く受け入れる余剰のスペースといったものが、居心地の良い空間として存在するとよい。
- ②仙台市の新たな文化施設の基本構想では、同じように、新しい広場として多くの市民の方に色々な形で使っていただき、いつでも身近な施設として来ていただける、そのように開かれたものにしようという方向性が示されており、非常に期待が持てると思う。
- ③新しい文化施設の整備予定地の付近には美術館や博物館、大学もあるので、もともと文化的な地域がさらに強化されると思う。先ほどネットワークの話も出ているが、これらのどれか1つ行くという形ではなくて、美術館に行っても劇場にも来るという、相互の乗り入れを誘発してほしい。この場所はとてもポテンシャルを持っているが、ポテンシャルだけでは利用されないと思うので、どうやったら相互に、人の動きやプログラムが関わり合っていけるのかについて考えていくことが重要。
- ④この計画の5年間が経った段階ではまだ施設が出来ていないという状況であり、ここで課題とされていることが、複合施設の議論でも課題とされていることと重なると思う。この計画で施策を打つことが複合施設の活動や体制づくりに繋がっていくのではないか。
- ⑤最近強く思うのは行政が直接しっかり関わらないといけない部分があるということ。それはマーケットでできないこと。新たな文化施設を民間の企業さんが作ってくだされば一番良いが、それはほぼない。これを維持するためであってもその公益性から、チケット代をものすごく高く設定することはできず、むしろそういうことをしない方が良い施設だと思う。優れた芸術を色々な人たち、色々な条件を持つ人たちにアクセスしてもらうという観点から考えれば、やはり施設の整備、それからマネジメントは行政が責任を持ってやらなければならないのではないかと思う。

### **調査について**

---

- ①どうしても舞台芸術の団体の方が多いということがあって、視覚芸術、デザイン、建築等の分野に関しては、余り言及されていないような印象で、調査の偏りが若干見られるので

はないかと感じた。仙台市内のアートギャラリーや、音楽、全ての芸術の面において市内のマッピングや、経済的な側面との関係についても留意して計画を作り、基本理念を考えていく必要がある。全体的な芸術分野のバランスという点をお考えいただきたい。

- ②視覚芸術あるいは建築、写真というような領域の方たちにもヒアリングの対象を拡げるべき。アーティストというのは個々、独立した存在として活動する方なので協会や団体に所属していない場合も多いが、仙台市の中には社会的に意義のある活動をしている芸術家、デザイナーはたくさんいる。市民のアンケートの中のニーズにおいても、美術への期待、美術を通じた楽しさや場づくりの必要性ということが、上位にランキングしている。
- ③ヒアリングなど、ご意見を頂戴するというのは、大変かと思うができるだけ行っていただくと良い。関係のある方々を巻き込んで、関心を持ってもらうということは、この基本計画が立ち上がって、5年間、何らかの形で進んでいく中で、計画を支えてくれる、仲間を作るようなものなので、今からでも色々な方々に声をかけて、色々な意見を聞いて、当事者意識を持っていただくということも非常に重要だと思う。

## **基本理念のキーワード**

- ①理念が先にあって、そしてそのための姿はこうあるべきだというような順序の方が収まりがつくのかなと思っている。計画自体はおそらく基本理念が最初に来て、その後目指す姿が来るという形になるのではないか。
- ②文化芸術が「大切」であるという、その「大切」の意味が一体何なのかというのは結構難しい。目に見えない力なんだけれども、大切だと誰もが思っている。簡単に言えば、それは感性であったり情操であったり、創造性であったりというような言葉でくくっていくことができると思う。こうしたことが基本理念の中に反映されていくのではないかと考えている。
- ③市民の誰もが芸術文化の力というものを享受しながら、そして豊かな感性を持って、充実と活力と潤いのある生活を過ごせる仙台のまちというふうになると良いと思う。
- ④「文化芸術の力」という言葉に関しては、それに携わっている人だけが思っていることじゃないか、などいろいろな議論を呼び、私たちも考えさせられることがあった言葉だった。
- ⑤「杜の都」や「連携」もとても良いと思うが、文化芸術の基本のところでは「よりよく生きる」ということに関してこれは全人類にとって必要なところで、それによって文化芸術があり文化芸術を求めることがあるので、この言葉に関してキーワードの中に入れていただけたら嬉しい。
- ⑥文化芸術をどのように捉えていくかということ、そもそも文化芸術がどのような力を持っているかということかと思う。今、世界的にはウェルビーイングと文化芸術を繋げたような動向があり、それを日本語に置き換えた場合、どうなるのかなと考えていた。「よりよく生きる」ということが、ウェルビーイングの日本語の意味なのかと考えていて、この言葉をキーワードに入れていただければと思う。
- ⑦文化芸術はまず拠点になる建物があって、これから素晴らしい建物を市の方で計画しているということもあるので、建物と建物をつなぐ部分、現実的には道路や交通手段になるが、そこを今まで仙台市の方で使ってきた言葉の中で考えて、杜の都の「杜」というのは

どうだろうかと思う。この杜の中で、一本一本の木が建物といった文化芸術に関係する建物を象徴している。一つ一つの木、そして全体を表す杜、そういったところを「杜」という言葉で表現するというのも一つの方法かと思う。「杜の都」というのは今までかなり使われてきている言葉なので、それを「文化芸術の杜」、あるいはもう少し別の言葉を付けて、杜という言葉を考えるのも良いかと思う。

⑧仙台駅を降りたら目の前が並木通りで、本当に大きな木がある。政令指定都市の中心部にこれだけの巨木があるというのはすごいなといつも思うので、杜というのはキーワードにふさわしく、強みだと思う。

⑨「よりよく生きる」はいいなと思った。目指す姿で表現されているところが、作ったものを外に発信することや、それによって人を惹きつけたりすることに軸があるように思えるが、もっと交流や双方向のものというところ、「繋ぐ」とか「連携」という言葉が入ると良いと思う。

⑩政策課題の軸をしっかり提示していくことが大事。計画で理念を提示するというので、それぞれの取り組みの意義を、それを感じていない人と共有するためにこれ（計画）を使ってもらえるかもしれない。そう考えたときに、高らかに文化の重要性や存在意義を、「よりよく生きる」という言葉や、様々な背景があっても、一緒に、共に生きていくための1つの術（すべ）として文化があるのだと、しっかりと、それくらい大きな言葉で、基本理念をうたうのは重要なのではないかと思う。

⑪この計画の背景として、コロナの影響や法制度、文化の領域が広がってきているという状況がある。なぜそうなのかと考えていくと、そもそも文化は、人と人がともに生きていくための工夫として作られたものであって、ひいては、ひとりひとりがよりよく生きていくために生まれてきたものだからだと思う。それが他の分野と関わる中で、その力が発見されていっている。文化が他の領域と連携できるという機能を書くことも大切だが、そもそも人が生きていく上で文化が支えになるものであるということをしっかりと明示することは本当に必要なのではないかと思う。ひとりひとりがよりよく生きていくということもあるし、色々な人たちと一緒に生きていく、ともに生きていくために文化というのは人と人を繋いだり、さまざまな場面で生きることのベースになるのだということが入ると良いのではないか。改めて文化の意義をきちんと発信していくということが重要なことなのではないかと感じている。

⑫かつて自治体の計画を調査したことがあり、「賑わい」「潤い」「活力」「魅力」「より良い」「よく生きる」「活躍」「豊かな」といったワードがあった。私が調べた時は「潤い」が多かったような記憶がある。色々なキーワードをどう組み合わせるかというところで、個性を出すということもありうるかと思う。

## 次回提示する骨子案について

①次回ご用意いただく骨子案というものは、目指す姿と、課題、強みが整理された形で出てくるという形か、それとも、計画を進めていくのかという推進体制や、実効性を持たせるような運用の位置付けのようなものも含めて出てくるのか。

→目指す姿、それから基本理念を整理したもののプラス、今後の施策の方向性など、そういったところも含めた骨子案という形で考えている。